

市登録文化財（無形民俗文化財）の候補について

1. 枚方市登録文化財制度について

市民の郷土への理解と愛着の増進を図ることを目的に、成立年代等の理由により指定には至らないものの、地域の歴史にとっては欠くことのできない文化財について、より幅広く、ゆるやかな文化財保護の網をかけようとするもの。

※ 参照：枚方市登録文化財要綱

2. 登録文化財の候補について

(1) 名称

春日神社（津田）の秋祭り

(2) 春日神社（津田）

春日神社は、市域東部の中心的村落であった津田村の氏神で、創立年代は明らかではないが、中世に三之宮神社の内宮として祀られたと伝えられている。現在の本殿は天明6年（1786）に奈良春日大社本殿を移築した「春日移し」であり、末社若宮八幡宮本殿も同年に奈良春日大社末社三十八所神社を移築した「三十八所移し」である。「三十八所移し」は奈良県内に7棟、大阪府内ではこの1棟しか確認されておらず、2棟同時に譲り受けたことがわかる貴重な遺構であるため、平成23年に市有形文化財に指定している。

(3) 春日神社（津田）の秋祭り

津田の秋祭りといえば「提灯と太鼓」といわれる。旧暦9月18日が宵宮、19日が本宮であったが、現在は10月18日に宵宮、19日に本宮を行う。7つの町が出す丈160cmほどの大型の箱提灯は、上輪・下輪に龍と宝珠、雲、波、龍宮城と浦島太郎などの立体的な鍔金具が付き、火袋には献燈の文字、下り藤と三巴紋、鹿と紅葉が色鮮やかに描かれている。

本殿前に谷町、市場町、田中町、大谷町の各町から1張ずつ、大峰町から1対2張の計6張、拝殿入口に横町から1対2張、嶽町から2対4張の計6張の大提灯を出す。拝殿の軒先には丸提灯（ほおずき提灯と呼ぶ）も吊るす。神社前の道路上2か所に高さ5mほどのヤグラ提灯を掲げるが、これは「南の辻提灯」、「北の辻提灯」と呼ばれており、各町が毎年輪番で立てる。また、家々の門には家紋を入れた提灯を掲げる。

宵宮、本宮には拝殿に口径約90cmの大太鼓を据え置く。「ドンドンツツドンドンツツドンドンツツドンドンツツ（サイ）」という節がある。子どもたちは誰でも自由に太鼓を叩くことができる。

(4) 提灯の来歴 別添資料参照

提灯の寄進は「見聞録」に記述がみられ*1、天明6年に本殿を移築し、普請が終わった寛政元年（1789）9月18日に各町の若中から大提灯10張が寄進されたことがわ

かる。現存する大提灯がこの時寄進されたものかは不明である。嶽町の提灯箱には天保13年(1839)の銘、横町の提灯箱には安政2年(1855)の銘がある。谷町、市場町、大谷町、大峰町の提灯箱にはすべて文久3年(1863)の銘、箱蓋裏に鋳金物師・塗師・提灯師(それぞれ同じ名前)の墨書があるため、同時に作ったものと考えられる。また、田中町は提灯修復時に箱も新調しているが、箱に「田中町/文久三年」と書かれており、鋳金具の模様からも文久3年に谷町等と同時に作ったものと考えられる。

現在、提灯一式は境内の蔵で保管しており、各町が土用の期間に虫干しを行い、秋祭りの宵宮と本宮に出す。宵宮の日は午前6時頃に出し、午後9時頃に仕舞い、本宮も同様に出す。かつては、提灯は各町長宅で保管し、土用の虫干しと祭りの提灯かけは若中の役割であったことが「宮座調査ノート」*2からわかる。また、昭和30年頃までは青年団が提灯の火の番を行っていたことが聞き取り調査からわかっている。

(5) 太鼓の来歴 別添資料参照

太鼓の寄進も「見聞録」に記述がみられ*1、大提灯寄進の翌年、寛政2年(1790)9月16日に氏子から2尺9寸の太鼓が寄進されたことがわかる。

平成28年1月に両面の皮を張替えた際、胴内に「寛政二歳/戌九月吉日/撰州大坂渡辺村/細工人太鼓屋/又兵衛(花押)」の文字が見つかった。胴内には文政9年(1826)、天保4年(1833)、天保14年、弘化4年(1847)の年号と村名、細工人名等も書かれており、代々修理しながら現在まで伝わったものとわかる。

現在、太鼓は集会所で保管しており、各町が輪番で10月18日の早朝に拝殿へ運び設置し、19日の夜に集会所へ運び片づける。

*1 「見聞録」の記述

津田村の役人日記は「見聞予覚集」、「見聞覚知記」、「見聞録」、「則留記」があり、元禄2年(1689)から天保5年(1834)の記録が残っている。「見聞録」は延享元年(1744)から文政2年(1819)の記録である。

「見聞録」によると、春日神社の普請は安永9年(1780)の拝殿建替から始まる。天明6年(1786)に奈良に宮と若宮を受け取りに行き、移築している。塀等の整備も行ったようで、大工事であったことがわかる。寛政元年(1789)9月17日に「当社普請出来ス」とあり、翌日9月18日に「村中若中右大ちやうちん拾ふり寄進」の記述がある。また、翌寛政2年9月16日には「宮太鼓出来、氏子中右寄進、式尺九寸」の記述があり、この年には絵馬や狛犬も寄進している。

*2 肥後和夫 宮座調査ノートの記述

民俗学者の肥後和夫が昭和10年前後に実施した宮座調査では、春日神社(津田)も調査されており、若中に関する記述に提灯のことがみられる。

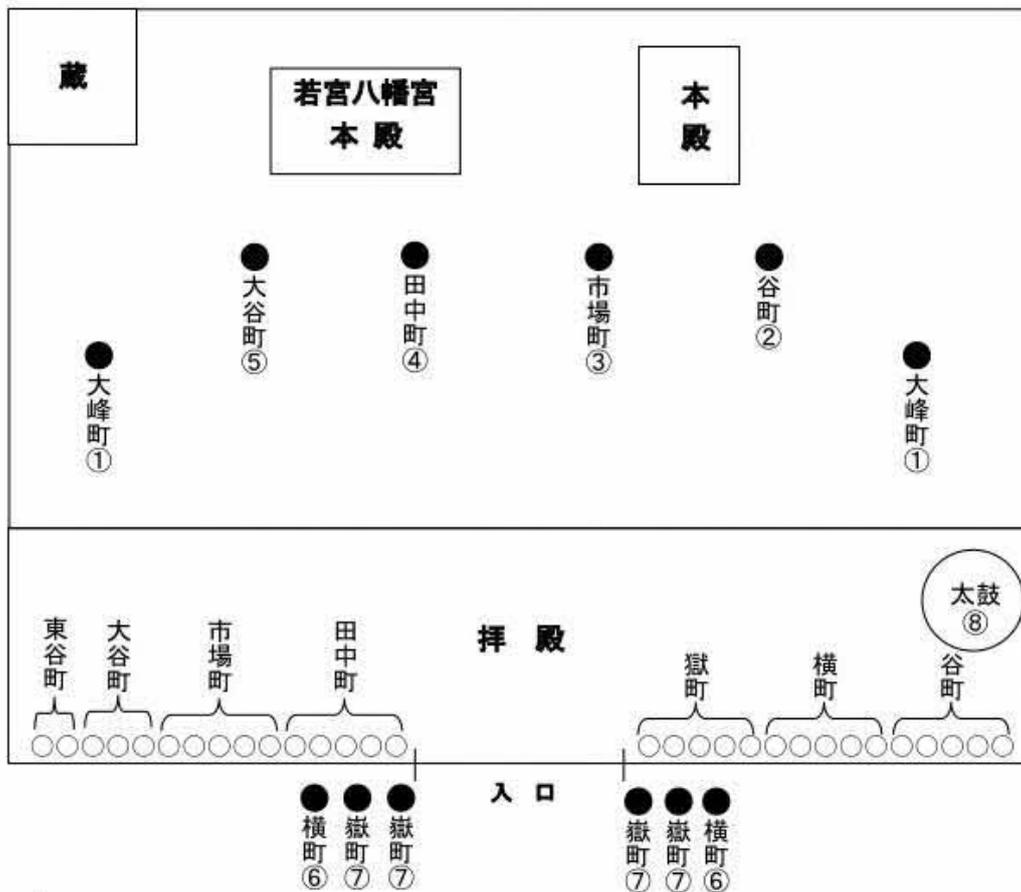
「若連中ノ集合時期及場所 土用ノ期間旧町長 市場町、田中町、嶽町、横町、谷町、大谷町、東谷町、大峯町 ノ家ニ於イテ提灯干ヲナスタメニ集合。祭(九月十九日)提灯カケノタメ同ジク各町長宅ニ集合ス、町長宅ハ提灯保管所デアツタカラデアル。現在ハ社ノ境内ニ保管ス。」

3. 登録の趣旨

「春日神社（津田）の秋祭り」は、江戸時代後期の年紀を持つ大提灯や大太鼓が現存しており、各町から提灯を出すという行為も江戸時代から変わらず今に続いている。祭りに銚金具の付いた大型の箱提灯を出すという例は他に見られず、ムラの構造や祭礼の在り方がわかる貴重な民俗文化財であるため、枚方市登録文化財に登録しようとするものである。

4. 提灯・太鼓の概要

(1) 配置図



※東谷町は大谷町から分かれた町で、大提灯は大谷町として出す
※丸番号は別添資料と対応する

(2) 提灯・太鼓の詳細

別添資料参照

(3) 秋祭りの様子



本殿前の大提灯
(平成23年10月18日撮影)



拝殿前の大提灯
(令和6年10月18日撮影)



南の辻提灯を立てる様子
(令和6年10月18日撮影)



本殿前の大提灯
を立てる様子
(令和6年10月
18日撮影)



拝殿前の大提灯を出す様子
(令和6年10月18日撮影)



拝殿前の大提灯
(令和6年10月18日撮影)



北の辻の提灯
(令和4年10月18日撮影)



家の門口の提灯
(令和6年10月18日撮影)